

■効果の見える河川事業
徳島県 園瀬川 広域河川改修事業

徳島県 東部県土整備局
局長 久住 武司



園瀬川は、名東郡佐那河内村の旭ヶ丸に源を發し、嵯峨川、多々羅川、冷田川等の支川を合わせ、徳島市津田地区において吉野川の支川である新町川に合流する、幹川流路延長約25.5kmの一級河川です。

園瀬川の中流域から下流域は、平坦で河床勾配も緩く、三方を山に囲まれ流域で降った雨が集まりやすい地形となっており、過去から浸水被害が度々発生していました。

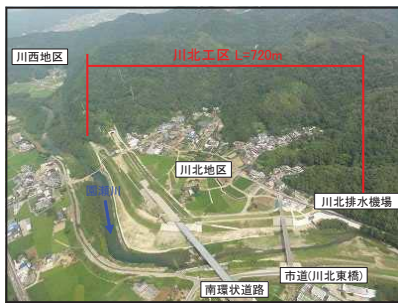
このため、昭和21年から改修事業に着手し、当時は資産のある左岸だけを築堤し、対岸を遊水させる片岸築堤方式で一次改修を終えていましたが、その後の流域の都市化の進展や昭和25年のジェーン台風による浸水被害を契機に、両岸を築堤することとし、下流から約7.5kmの区間について、順次整備を進めてきました。

しかし、平成に入っても中流域を中心に相次ぎ浸水被害が発生しており、特に平成16年の台風23号の豪雨では、無堤区間である川北地区で床上22戸、床下3戸の浸水被害が発生したことから、平成19年度に川北地区の事業に着手しました。

川北地区においては、国の南環状道路事業と一体となって整備を進めるとともに、徳島市の潜水橋抜水化工事と排水機場新設工事（川北排水機場）とも連携を図りながら築堤工事を進め、平成26年7月に堤防締切が完了しました。

この結果、平成26年の台風11号の豪雨では、堤防締切と新設された川北排水機場の整備効果により家屋浸水は発生しませんでした。

今後も、引き続き、関係機関や地元住民と協力し、無堤区間として残る川西地区の整備を推進するなど、浸水被害の解消を図って参りたいと考えています。



川北工区 全景



川北工区 改修状況

■「安心とくしま」の実現へ

徳島市長
原 ひでき
秀樹



徳島市は、市の北部を流れる四国一の大河・吉野川とその支川が育てた三角州に発達した県東部に位置する県庁所在地で、現在の市域面積は191.25km²、人口は約26万人となっており、地方の中核的都市として、産業をはじめ、政治、経済、文化、教育、情報といった様々な面において高い集積があります。

本市は、年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれ、東部は紀伊水道を臨み、南部は山々の緑を背にした自然豊かな都市で、本市の象徴ともいべき眉山、城山が市の中心部にあるほか、吉野川をはじめとする大小あわせて138もの河川が市内を流れており、他都市に類をみない水とともに発展してきた都市です。

特に中心市街地には、新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」の愛称で親しまれている地域があり、その周囲を巡る周遊船が運航されているほか、緑や光により、水の魅力を演出する景観づくりが行われるなど、水を活かした個性的な市街地が形成されています。

一方で、地球温暖化に伴って台風が大型化し、日本へ上陸する時期も長期化しております。近年では、平成16年の台風23号や平成23年の台風15号などにより、家屋や農地に多くの被害を受けました。特に新町川の支川である園瀬川は、本市の一級河川の中で唯一無堤区間があり、川北地区では、度々浸水被害が発生しておりました。

そこで、県の園瀬川・広域河川改修事業と連携しながら、本市においても、川北排水機場新設工事や市道下中筋・川北・川西線 川北東橋の抜水化工事を実施してまいりました。その結果、平成26年の相次ぐ台風において、川北地区では、家屋の浸水等大きな被害は発生しませんでした。

今後も、本市のまちづくりの基本理念の一つである「安心とくしま」の実現に向け、地域の防災力を向上させる様々な施策を推進して参りたいと考えております。



川北排水機場